

教授 片山 郁夫

紙上公開講座

函館大学 Hakodate University

▼▼▼ 68

毎週金曜日掲載

「断捨離」が大はやりですが、「隠す」という整理法?もあるようです。整理・収納の本質からは邪道かもしれませんが、「上辺の見え目さえ整然とすれ(隠せ)ば良し」とするなら、これで当面の用は足りるわけです。
企業会計の領域でも「隠す」手法による不正事例を見受け

会計単位的前提

ることがあります。財務諸表作成・報告すればよかったのの商品や損失の発生といった会社等、資本・経営的に密接「不都合な事実」を「隠す」ことによる利益の過大計上(粉飾)や損失の「飛ばし」です。されま

経済的実体の観点へ

ここでは前者を考えます。わが国の会計は1970年代後半まで、企業(法的実体)を単位(会計実体)として計算・報告する単一体制でした。個別の企業ごとに財務諸表を

でした。

かくして会計の計算および財務報告制度に、親会社を中心とする企業集団(経済的実体)単位の連結財務諸表が導

入されるに至ったのです。なお、課税所得および配当可能利益の算定は関連法規との関係上、基本的には個別財務諸

表に基づいています。